

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより(101)

「戦後」と「戦後池田」
について考える(12)

敗戦後、地方自治法が制定され市政は民主化され近代化された。しかし、制度が一新しても変身は容易ではない。前号までの武田市長に続いて、池田市役所と市議会の姿を見てみたい(以下、敬称略)。

役場の風景

井上丞二は、職業紹介所の紹介で1941(昭和16)年に市役所に就職した。「あんた給料なんぼいる」と聞かれたので、「お任せします」と答えたという。在職中に軍隊に召集され1945年10月に復帰した。戦後は「ちょっと和やかになってたんじゃないか」と感じた(2007年3月19日採話)。

富士井勘一が市役所に入ったのは、敗戦の年の9月、親類の紹介という。当時、職員は「70人もおったかなあ」。池田はまだ「田舎町」で、職員には地元で百姓をする人もおり、「お金にあんまり困ったはれへん人が多かった」。農繁期になると2日ほど役所を休む職員が「当たり

前のようにありましたな」(2007年4月25日採話)。

1946年に市役所に勤めた若生正も、戦後初期の役所の風景を次のように語っている。「(給料は)いや〜安かったですねえ」。兵隊の服装で、飯ごうに昼飯用のみそ汁を入れて、「チャポン、チャポン」鳴らしながら役所に通う人もいた(2006年3月16日採話)。

変化の兆し

森久巳は、1956年におじさんの紹介で池田市に採用。「役場はのんびりしてまんがな」「活力とか活発さというか生氣というか、そんなんはなかった」。森は卒業で、採用の日に武田市長から「五月丘の開発をやれ」と言われた。「開発いわれてもね、見当つけしまへん」。開発の勉強は「神戸市の専門家の人に付きっ切りで教えてもらい」「あの地区、毎日毎日歩いて、こういうふうな区域にしよう」と調査を重ねた。のんびりした役所の空気に、「僕らテンポ合わせまへん」と感じたという(2006年6月14日採話)。

1950年代の半ばごろ、役所の雰囲気に変化の兆しが現れた。森の言葉が、それを示している。きっかけは、五月ヶ丘住宅団地建設という大事業の開始であった

近隣地域の代表

池田市の戦後第一回(1947



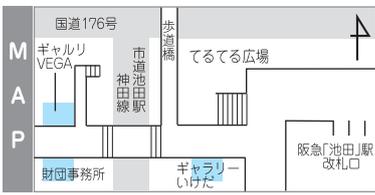
初代公選市長と新市議会議員(1947年)

年)、第二回(1951年)の市議会議員選挙では、定数30人のところに50人以上が立候補し、有権者は2万人台の前半から半ばくらい、投票率は80%前後と高い。また、当選に必要な平均得票数は約500で、ほぼ顔見知りの範囲である。多くの住民は近隣の顔見知りを選んだ。投票率が高かったのは、その地縁の強さによったのであろう。

池田市では、池田・呉服(旧池田町)・北豊島(旧北豊島村)・細河(旧細河村)・秦野(旧秦野村)の小学校区が、戦後も地域社会の単位として大きな役割を担った。聯合町会や消防団などの設置単位である。議員数を居住地別に見ると、校区別の人口割合に比例している。市議会には戦後、新人が大幅に進出した。しかし、戦後の市議会も近隣社会(校区)の代表者の寄り合いという点では、戦前以来の姿を引き継いでいた。(池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(☎754・6674)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 第2回島田憲次油絵作品展 ~12/2月
- 近藤幸子展Ⅲ 感謝 12/4(水)~9(月)
- 第4回池田市ゆかりの作家達「昭和…あの頃」 12/11(水)~16(月)
- 2013 FINAL Exhibition 久保義裕「絹絵の世界展」 12/18(水)~23(祝)

【ギャラリーVEGA】

- Kibecraft Exhibition ~12/2月
- Ki:Ki工房作陶展2013「陶・自由形」 12/4(水)~9(月)
- 宮山博司水彩作品展 12/4(水)~9(月)
- 江原和足展「ルールのある風景」-昭和の残像- 12/11(水)~16(月)
- 大阪青山大学・大阪青山短期大学 第8回「アソビと造形」展 12/18(水)~23(祝)

【開館時間】

10:00~19:00(最終日は16:00)
 【休館日】 火曜日、12/24(水)~1/7(月)
 【入館料】 無料
 【使用料】
 <ギャラリーいけだ> 5万円(展示販売不可)
 <ギャラリーVEGA> 15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売可)
 【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間
 【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
 (助)いけだ市民文化振興財団
 (☎750・3333)

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより102

「戦後」と「戦後池田」

⑬ について考える

今年が戦後69年

日本が敗戦した1945（昭和20）年から数えて、今年8月には69年になる。1年前にこの連載を始めるとき、古希に近い歳月を「戦後」ということで一つにくくれるか、戦後は終わったという人もある、しかしまだ続いているとの主張もある。では、「戦後」とは、「池田の戦後」とは何かを探ってみたいと書いた。その際に予告した通り寄り道、迷い道の連続で、池田市政の周辺を垣間見ただけ、戦後10年ほどをただただだけに終わってしまった。ともあれ、年が改まったのを機会に時間を進め、1950（昭和30）年代半ばから約20年の高度経済成長期について考えることにしたい。

高度経済成長

この間に日本は、GNP（国民総生産）が年ごとに10%増加し、1968（昭和43）年には資本主義世界でアメリカに次ぐ地位に駆け上っ

た。農業国の日本は完全に工業国に変ぼうし、急速な都市化の時代を迎えた。「大量生産・大量消費」「オートメーション」「スーパーマーケット」「三種の神器」「3C」「郊外化」「団地」「レジャー」など、時代を象徴したのは、こんな言葉だろうか。

成長のスピードこそ日本は群を抜いたが、アメリカは1920年代に大量生産・大量消費の時代を迎え、戦後は覇者としてその経済と生活文化を世界に押し広げた。戦災被害がひどかった戦勝国の西ヨーロッパも、史上まれに見る経済成長を遂げた。途上国では人口が増加し、食糧生産が人口の伸びを上回った。イギリスの歴史家ホブズボームは、戦後から70年代半ばまでを「黄金の時代」と名付け、次のように語っている。「欧米・日本の」国々の平均的市民は、彼らの両親の時代には大金持ちだけができた暮らしができるようになった」「この時代が全地球にわたって人間生活にもたらした変化は、深くかつ逆転不可能なものであった」「（それは）石器時代の農業の発明とともに始まった7千年、ないしは8千年の歴史の終わりを記したと主張できるだろう」（『20世紀の歴史』、1996年）

まんじゅうの皮とあんこ

高度経済成長は、日本に限らず世界の現象であった。そして、世界が戦後の覇権国家・アメリカの色合い



池田駅前の国道176号と桜通り（1961年）

に染め上げられていく過程でもあった。いずれにしても、それは人間の歴史に一紀元を画すほどの大きな変容をもたらせた。

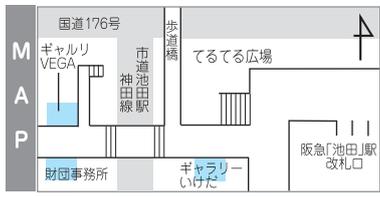
日本についていえば、「占領軍による戦後改革」がまんじゅうの皮部分を変えたとするれば、あんこまで変えたのが「高度経済成長」であった。いや、まんじゅうをショートケーキに変質させたといえるかもしれない。とはいえ、その変質のプロセスは一樣ではない。国によってはもちろん、日本国内においても地域により多様だといえる。

池田市は、高度成長の20年間で5万余りの人口が倍増した。戦災の影響が比較的少なく、戦前からの趣を色濃く残していた池田市も、この間に大きく変ぼうしていく。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 久保義裕 日本画展 1/8(水)～13(祝)
- 理想主義vsリアリティー 森たかみつ・林蘭奈2人展 1/15(水)～20(月)
- “三重奏”堀百合子・児玉えり子二人展 1/22(水)～27(月)
- “三重奏”鎌谷卓之個展 1/29(水)～2/3(月)

【ギャルリVEGA】

- 徳治昭童画展 1/8(水)～13(祝)
- “ほっこりワールド”コラボレーションvol.6
- 第14回京都市の絵師とその仲間たち 1/15(水)～20(月)
- 松下由典 木の家具・木の小物展 1/22(水)～27(月)
- 伊藤岱玲・花青二人展（陶芸） 1/22(水)～27(月)
- 平成26年カルチャーVEGA教室展 PART 1 1/29(水)～2/3(月)

【開館時間】

- 10:00～19:00（最終日は16:00）
- 【休館日】～1/6(月)、火曜日
- 【入館料】無料
- 【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売可）
- 【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
- 【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
（財）いけだ市民文化振興財団
☎750・3333

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより103

「戦後」と「戦後池田」

⑭ について考える

石器時代以来の変化

戦後の高度経済成長は、「石器時代の農業の発明とともに始まった7千年、ないしは8千年の歴史の終わりを記したと主張できるだろう」。前号で紹介したイギリスの歴史家ホブズボームの言葉である。農業、もう少し広く第一次産業は、長い間、人間のあり方に絶大な影響を与えてきた。それだけに、その役割の「終わり」は歴史を画する大変化を意味した。

日本で高度成長の始まる1955（昭和30）年では、まだ職に就く人々の41%が第一次産業に携わっていた。高度成長の20年間で、第一次産業就業者は13%に激減した。しかも「三ちゃん農業」になった。一家の大黒柱は都会で働き、かあちゃん、じいちゃん、ばあちゃんがする農業ということである。

大都市近郊農業

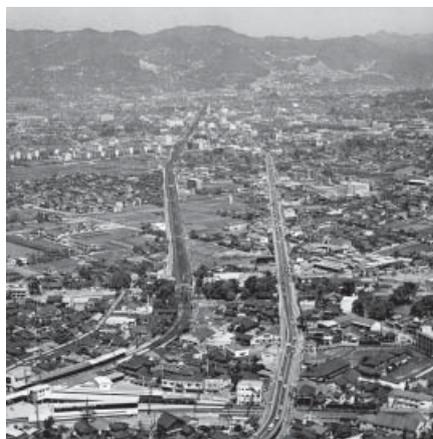
高度成長の前まで、日本で働く人

の4割が第一次産業に従事していたばかりでなく、都市に住む多くの人々にとって農村は、親・きょうだいなどごく近い親族がいる故郷であった。さらに、大都市の周辺にも農村風景が広がっていた。大多数の日本人にとって農山村漁村は、濃い縁のある身近な存在であった。

池田は、戦前の1939年に市になった。「市」は都市を意味するから、そのときから池田は都市である。小林一三が開発した室町住宅地をはじめ、池田は日本の最も早い大阪市の郊外都市となった。敗戦直後の1947年の臨時国勢調査によると、池田市に住む人のうち農業に従事するのは14%、そのほかの大多数は製造業・商業・運輸通信業などの都市的就業者である。農業就業者の割合では、高度成長後の日本の平均値に近い数字に達していた。

池田市の農村風景

しかし、住宅や商店が並ぶ都市的風景は、ほぼ池田駅や石橋駅の周辺に限られていた。ランドマークの五月山は市面積の約三分の一を占め、五月山西側から北方にかけての細河、五月山南方の秦野、阪急線以南の北豊島には、農村風景が広がっていた。高度成長以前の池田の都市的風景は、大海に浮かぶ島といえる。それが、高度成長の20年で逆転した。農村風景は、都市的風景の大海に浮かぶバラバラな島になった。



石橋から池田駅方面を望む（1960年代後半）

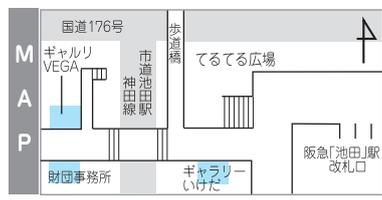
5年ごとの国勢調査によると、池田市人口が最も伸びたのは1960～65年である。増加率は39.6%、5万9千余の人口が8万2千余となった。1975年には10万人を超えた。前号に記したように、高度成長の20年ではほぼ倍増したのである。しかし、市街地人口の増加は大きくはなかった。激増したのは秦野や北豊島など五月山南側の農村地帯である。また、1960～65年に急増した人口の四分の三が、これら地域の増加分で占められた。土地利用の変化では、農地を住宅と工場に変えたのが転用面積全体の86%と大部分であった（1958～64年）。

池田・石橋両駅の市街地近くから広がる農村風景は、高度経済成長期に姿を消した。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- “三重奏” 鎌谷卓之個展 ～ 2/3(月)
- いけだ市民文化振興財団所蔵展 “はな” 2/5(水)～10(月)
- 富田好久米寿記念写真展 2/26(水)～3/3(月)

【ギャルリVEGA】

- 平成26年カルチャーVEGA教室展 PART 1 ～ 2/3(月)
- 梅花女子大学短期大学部 生活の美アート展 2/5(水)～10(月)
- 平成26年カルチャーVEGA教室展 PART 2 2/12(水)～17(月)
- 阿山たか子 陶芸(小品) うつわ展 2/12(水)～17(月)
- コケラヲトシ.4 2/26(水)～3/3(月)

【開館時間】

10:00～19:00（最終日は16:00）

【休館日】 火曜日、2/19(水)～24(月)

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）

〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）

【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
（助）いけだ市民文化振興財団
☎750・3333

わがまち
歴史散歩

「戦後」と「戦後池田」

15 について考える

前回、高度経済成長期に池田市の農村は、都市化の大波に飲み込まれたと述べた。戦後の池田市農業の状況とその激変の様子について、当事者の辻本義雄さんの話に耳を傾けてみよう。

北今在家の農業

北今在家は、かつては箕面川下流の左岸に位置する村であった。現在の豊島南地域にあたる。辻本さんは1946（昭和21）年に戦地から復員し、妻や父・母の一家で農業に精を出した。本人も父親も会社勤めをする兼業農家である。農地は3〜4反あったが、戦時下での伊丹空港の拡張や道路の拡張で2反足らずに減っていた。

「まだその時分は牛もおりませんしね。機械もなかったですな。しかしまあ、家内労力でいこう言うてね。備中（ぐわ）でゴンゴンゴンやりもって、その合間にいろんな牛とかね、いろんなもんをちよっとお借

市史編纂だより104

りして」（2006年7月18日採話）
1960年代になると耕運機など農業機械が出てきた。

協働作業

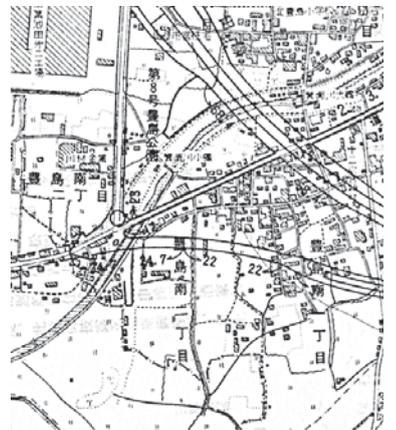
地区には、実行組合に加入する60軒くらいの農家があった。「その時分には相当、田んぼもあり、皆それぞれ一生懸命に、自分なりに作物を作ってたね」「石橋に持って行ったり、池田に持って行ったり、商店の方にね、売るわけですな」。

農業には家を超えた協働作業が欠かせなかった。それを組織したのが実行組合である。「なんかあったら組合員集まれとか、そういうことではないかな、溝掘り、草刈りいもうもんをね、せやなかったら個人的にはできないですからね。その時分からいろんな用水として、ここから石橋に上がって」「瀬川のね、地域まで水を取りに行くんですわ」「溝掘り」せなんだら十分に水がこっちに来ない」。

作物は米と裏作に野菜を作った。それにイチゴ。「イチゴをウチらでも1反からやったことあります、ずーっとね。こら大変です、なかなかその手入れせないかん、肥料はやらな草は生えてくるわね。ちゃんと、ワラひいて、ビニールひいて」。

マンションへの転用

豊島南地区の農業が消滅状態になったのは、国際空港化に伴う大阪空



水田が広がる豊島南地域（昭和42年）

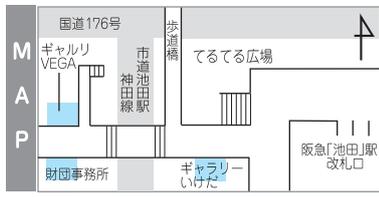
港の拡張と万国博覧会関連事業の高速道路・幹線道路の建設がきっかけであった。1960年代の半ばから後半の時期である。農地は買収されて大幅に減った。「田んぼがなくなっただけで、後継者がなくなっただけで、うえ農作物を「作って売るだけで、何が出てきますねや、肥料とか。自分の労力考えたらダメなんですよ」。農業は、もうけ仕事ではなくなった。「その空港に取られて残ってた田んぼが300町からあったんですわ。あつこにマンションを建てましたんやウチも」。1990年代のことであった。かつての農地には工場も増えた。今ではこの地区に「ほとんど田んぼありませんわね」という。

一家総出で働き、近隣と協働するなどの農的生活は、都市から遠いものになった。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 富田好久米寿記念写真展 ~3/3(月)
- 見つみつめられながら（入江祐加） 3/5(水)~10(月)
- 鴉汎展 山本鴉汎（嘉家男） 3/12(水)~17(月)
- 伊澤友梨墨彩画展「そして、今」 3/19(水)~24(月)
- 花咲く絵画展~小林尚子~ 3/26(水)~31(月)

【ギャルリVEGA】

- コケララトシ.4 ~3/3(月)
- 藤原幸雄作品展（絵画） 3/5(水)~10(月)
- 彩の会（油彩画） 3/5(水)~10(月)
- カルチャーサロン半蔵作品展 併設 亀井良絵画展 3/12(水)~17(月)
- 片岡宏幹 回顧展（金工） 3/19(水)~24(月)
- 平成26年カルチャーVEGA教室展 PART3 3/26(水)~31(月)
- 四人展（油彩画の仲間達） 3/26(水)~31(月)

【開館時間】

10:00~19:00（最終日は16:00）

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）

〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可）

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
（財）いけだ市民文化振興財団
☎750・3333

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより¹⁰⁵

「戦後」と「戦後池田」

⑬ について考える

前号の北今在家の場合で見たとおり、高度経済成長期に池田の農業は壊滅に近い状態になった。しかし逆に、高度成長に伴って発展した農業もあつた。細河の植木業である。藪内吉清さんは、「五葉松の藪内」で知られた「農の匠」である。戦後すぐ、14歳から植木業を始めた。この人の話を通して、植木業の盛衰を探ってみよう（2006年7月11日採話）。

細河の植木

細河は山に囲まれた谷底平野、土地は狭く粘土質で作物に恵まれなかった。だが、高温多雨・排水良好、それに大消費地に近いなど、植木の生産には適していた。細河の植木業は、江戸時代ごろには始まっていたという。

ただ、戦時中には長い空白期間があり、戦後の再開には困難が多かった。「植木の材料もないわけです。挿し木するいうても、元がないわけです」「四国に飛んで五葉松の苗木

を取ってくるわけです」「持って帰って接いで増やしたり」「鳥取県とか、兵庫県の奥辺りに行ってね」「それを園芸組合へ、市場へ出すわけですわ」。

敗戦から高度成長までの10年は、植木業再生の準備期間であった。

全国ブランド

「昭和」30年ぐらいから40年ぐらいね」「その時代が一番わかりかし手間いったけど、金が上がった」「全国に（細河の植木が）ざーっと広がってしもうてね」「もう地方から見学が、シーズンになったら、観光バスで来るぐらいね」。さらに「（1970年の）万博時代ぐらいのときから、10年ぐらいが一番良かった」「流通が激しく、作ったもん全部売れる」。千里ニュータウンが建設され、全国的にも住宅の建設ラッシュが続く、植木需要が増したためである。長年蓄積された技術が生き、細河の植木は全国ブランドになった。その結果、細河では「家も割合きれいになりました」「植木の収入があつたさかいになった。普通の百姓だけやったら、10軒や20軒の百姓しとつたら、ほんなん家建ちまへんがな」。

一番しんどい時期

しかし、この盛況は大阪で開かれた花と緑の博覧会（1990年）を最後に、パツタリとやんだ。マンションが多くなり需要が減ったことも



五葉松などを植えている細河の植木畑

あるが、一番こたえたのは、細河に比べ「数百倍ぐらい土地がある」産地が地方に広がったことである。細河の職人が技術を伝授した地域も少なくなかった。しかし大土地生産に対し、狭いところでの生産では価格競争でかなわなかった。

池田や石橋の駅に近い農地は、宅地や業務地に転換できた。しかし、市街化調整区域で土地の売買が規制されている細河はそれも難しい。第一、団地が建設された伏尾台を別にして、駅に遠く道路区画もされていない細河では、土地の買い手は少ないだろう。

「今になって中途半端な土地がようけ残ってしまったね」「後継者減ってしまったら、サラリーマン化されたい時期でんねん。どうするかというのがね」。

「どうするか」という問いに、答えはあるのだろうか。藪内さんの悩みは深い。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー

【ギャラリーいけだ】

- 原田明治絵画展-建物と静物のア・ラ・カルトー 4/2(水)~7(月)
- 諏訪正和絵画展~油彩・水彩・色鉛筆~ 4/9(水)~14(月)
- 花と葉っぱのコラボアート展 (二人展) 4/16(水)~21(月)
- 青井美弥子回顧展 4/30(水)~5/5(祝)

【ギャラリーVEGA】

- 平成26年カルチャーVEGA教室展 PART4 4/2(水)~7(月)
- 手仕事の仲間展 4/2(水)~7(月)
- 第5回「伊澤友梨」墨彩画教室作品展 4/9(水)~14(月)
- 平成26年カルチャーVEGA教室展 PART5 4/16(水)~21(月)
- 花と葉っぱのコラボアート展 (六人展) 4/16(水)~21(月)
- 「妖精の森ウエディング」プリザで紡ぐ幸せ 4/23(水)~28(月)
- 手描染色 しらゆり会 4/23(水)~28(月)

【開館時間】

10:00~19:00 (最終日は16:00)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

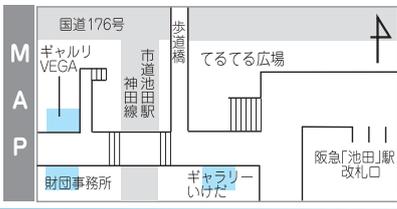
〈ギャラリーいけだ〉5万円 (展示販売不可)

〈ギャラリーVEGA〉15万円 (ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
財いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)



わがまち
歴史散歩

市史編纂だより106

「戦後」と「戦後池田」

について考える ⑱

前号までに見た農業とともに商業、とくに小売業は地域に密接した生業である。池田は、かつて北摂一の物資の集散地といわれた。しかし、鉄道・道路などの輸送機関の発達に加え戦時の経済統制などの影響で、戦前以来、集散地の役割に陰りが見え始めていた。

物資の集散地

西本町は、呉服橋から猪名川に沿って広がる街である。その町で、榎野きぬ子さんはもち屋、中川三郎さんは鶏肉屋を営んでいた。

お二人の話によると、戦後もしばらくは西本町が池田で一番繁華な商業地であったという。「川西のお客様さんが呉服橋を越えてね、来てくれはったんですよ」。新町はその西本町の北側に接している。能勢など「オク」から持ち込まれる木炭などの商品が卸され、その「オク」の人たちが西本町・新町で買い物もした。ところが、川西側に独自の商圈が形成され、卸機能が一層失われるなど商

業環境が変化し、両町の商業が衰えた。後の事業者の高齢化も衰退を加速させた(2010年4月3日採話)。

近代化と新しいニーズ

池田市には、戦前から阪急「池田」駅と「石橋」駅周辺に商店街があった。西本町・新町の後退と対照的に、商業地の顔に浮かび上ってきたのは両駅周辺である。鈴蘭灯とアーケードは、大正・昭和初期に大都市モダンの表れとして出現した。本町・栄町商店街は1951(昭和26)年に鈴蘭灯を取り付け、アーケードは本町・栄町が1959年、石橋は1962年に完成した。石橋で薬局を営んでいた西トミエさんは、「栄町いうたらもう大都会」「石橋から見たら」と語っている(2009年3月23日採話)。高度経済成長の開始期(1950年代半ば)、商店と映画館など娯楽施設が集まる池田周辺は、石橋に比べ「大都会」と映ったのである。

井関頼三さんは時代の変化を受け、1954年に本町商店街に喫茶店を開く。許可を取り行った保健所で、「コーヒー売れまっか?」と言われた。次に、ソフトクリームを売り出した。これも「非常に人気」で、十三年からこちらでは「一番で出しているっちゅうことで」。極め付けは「こつまん」と名付けた回転焼き風焼き菓子。最高で一日に7千個売ったという(2009年4月23日採話)。



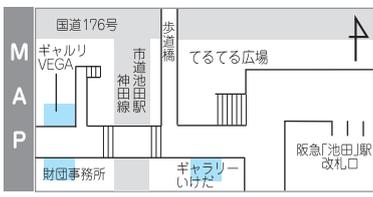
1960年ごろの栄町商店街

商人とサラリーマン

1965年の池田市において、仕事に就く市民の82%が会社役員を含む雇用者で占められた。池田市はサラリーマンの街、郊外住宅都市であった。とはいえ、地域政治を見ると、事業者の存在感が際立っている。例えば、1967年選出の池田市議会議員のうち、地元商人出身であることが確かな議員は、少なくとも定数の三分の一前後を占めた。市民全体の中の比率より、はるかに高い率である。サラリーマンが議員に立候補するのは困難、地域に目を向ける余裕も乏しい。それに対し、商人は生業が地域社会の動向に左右されるだけに、地域政治への関心が強かったのだろう。

このような中、池田市の商業もまた高度経済成長の大波に洗われた。(池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹)
問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(☎754・6674)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 青井美弥子回顧展(絵画) ~5/5(祝)
- 菌まゆみワールド(絵画) 5/7(水)~12(月)
- 山本正二・吉田哲夫ふたり展(絵画) 5/14(水)~19(月)
- 「お〜い雲」14 硯貴代司 パステル画展 5/21(水)~26(月)
- 松本保佑 油彩画展 5/28(水)~6/2(月)

【ギャルリVEGA】

- “ふ・わ・ふ・わ”(イラスト・童画・版画) ~5/5(祝)
- 今井画塾Delta展 vol.XV 5/7(水)~12(月)
- ザ・スペース小品展 5/14(水)~19(月)
- 大阪空港カルチャースクール・箕面駅前スクール 合同展(絵画) 5/21(水)~26(月)
- 高村喜美子作品展(絵画) 5/28(水)~6/2(月)
- 津田洋・溝渕優 二人展(絵画) 5/28(水)~6/2(月)

【開館時間】

10:00~19:00(最終日は16:00)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000万円(展示販売不可)〈ギャルリVEGA〉155,000円(プロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
財いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)



1969年当時のダイエー池田店（池田市消防協会提供）

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより⑩

「戦後」と「戦後池田」

⑱ について考える

スーパーマーケット

中内功が大阪市旭区千林に「主婦の店ダイエー」（1970年（株）ダイエーに改称）を開店したのは、1957（昭和32）年である。1959年制定の小売商業調整特別措置法で、中小小売業者保護のためさまざまな規制がかけられたが、スーパーは大量販売と安売りを看板に躍進した。1960年の小売商業売上額のベストテンは、すべて百貨店が占めた。それが1970年になって、上位11

社のうちダイエーの5位を筆頭にスーパーが6社を占め、1972年にはついにダイエーが売上額第1位の企業となった。スーパーは物価高に挑戦し、大量生産に対応した大量消費を実現する「流通革命の旗手」とされた。そして、高度経済成長長期の小売商業界に嵐を巻き起こしたのである。

スーパーと生活革命

セルフサービスと生鮮食料品のパック販売は、スーパーが採用した新商法である。客は市場や商店街と違って店員と話すことなく、黙ってレジで金を払えば用が足りた。店にとっては人手を省くことができ、客には店員と接触の少ない薄い人間関係が好まれた。

パック販売は、商品の清潔さを保ち、魚をさばくなどの料理の手間を省いた。スーパーが出現し、大型冷蔵庫と車が普及することによって、各種商品の大量の買い置きを可能にした。買い物は毎日するものではなくなり、多様な食材を保管できるようになった。掃除機や洗濯機など家電製品の普及と相まって、家事の負担は軽減し、日常生活のありようを変えた。当時、スーパーは身近な生活に「ハレの場」を提供した。

池田とスーパー

池田市では、1961年に石橋地区に開店したトーエイが最初のスー

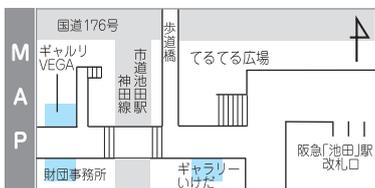
パーとされる。6年後の1967年に満寿美町にダイエー、呉服町にニッショールが出店した。ニッショールはさらに1970年に石橋店を開いた。地元の商人のなかには、前号に登場していた井関頼三さんのように、スーパーの進出を積極的に受け入れた人もいた。「ダイエーさんなんかやったら、人呼んでくれまんな」。地元の商店が工夫を凝らし、スーパーへの人の流れを活用すべきだと考えたのである。しかし井関さんは、本町など古くからの商人には、保守的な気風が強かったと語る。「皆、旦那はんだんねんわ」「ある程度、家作、まあ借間を持つてる」「せやから割合ね、こう左団扇の人が多いんだ」（2009年4月23日採話）。

最初ダイエーは、池田駅北側の本町に出店の予定だったが地元の高い反対で満寿美町に変更された。新町で紙・文房具の卸しを営む前川吉晴さんは、「当時その本町通であるとか栄町が、ある程度にぎやかだった」。だが、ダイエーが満寿美町に行くことで「もう完璧に逆に衰退した」と。市場会連合会の会長を長く務めた中井久さんは、スーパーの進出は「いや、やっぱりこたえましたね」と述懐している（両者とも2009年3月13日採話）。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 松本保佑 油彩画展 ~6/2(月)
- 第6回山路均油彩画展 6/4(水)~9(月)
- 花日和-吉田素子ポタニカルアート展9- 6/11(水)~16(月)
- 安田勝彦個展（絵画） 6/18(水)~23(月)
- 佐々木麦個展 6/25(水)~30(月)

【ギャルリVEGA】

- 高村喜美子作品展（絵画） ~6/2(月)
- 津田洋・溝淵優 二人展（絵画） ~6/2(月)
- 平成26年カルチャーVEGA教室展PART6 6/4(水)~9(月)
- 陶工房 悠 作品展 6/4(水)~9(月)
- 豊池フォトクラブ写真展 6/11(水)~16(月)
- 墨で描く世界遺産展 石橋美紀 6/11(水)~16(月)
- ギャラリーいのうえ 陶芸・絵画教室展 6/18(水)~23(月)
- 第12回 深山会会員展 6/25(水)~30(月)

【開館時間】

10：00～19：00（最終日は16：00）

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000万円（展示販売不可）〈ギャルリVEGA〉155,000円（プロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可）

【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより108

「戦後」と「戦後池田」

について考える 19

池田・石橋駅前の再開発

1970（昭和45〜54）年代には、多くの郊外都市において駅前再開発がスタートした。池田・石橋の両駅を対象に駅前再開発が始まったのは、1975年以後のことである。池田駅前の事業は進ちよくした。阪急電鉄を高架にし、新しい駅が設置された。駅の北側では、広場を整備してバスターミナルを設け、地上11階の商業・住居施設が建設された（ステーションN）。駅の南側には、地上12階の再開発ビル（サンシティ池田）が建てられ、上層の住居施設・駐車場とともに、ダイエーとニッショー



工事中のステーションN

を核店舗とする商業施設が設けられた。すべての事業は、1980年代半ばに完成した。池田駅前の景観は一新されたのである。

一方、石橋駅前の再開発は計画段階で頓挫した。商業地の土地・建物の権利関係の複雑さなどが、事業の進ちよくを阻んだといえる。石橋駅前には雑然とした街並みが残された。

都市景観の現代

商業の変化は、高度経済成長の末期から現在に至るまで続いている。コンビニは1970年代の初めに現れ、池田でも1979年に1号店が開店した。ファストフード店やファミリーレストランも、ほぼ同じ時期に広がった。1990（平成2）年前後になると、電気製品・食品・紳士服など、特定の分野に特化した大規模商店が進出した。スーパーは盛衰があり、かつてほどの勢いはないが、多くの都市に定着した。これら各種のチェーン店やフランチャイズ店のデザインは全国一律である。都市の駅前や幹線道路沿いは、同じ色彩同じ形の建物、その上同じようなサービスの店で埋められるようになった。再開発で実現した駅前の風景は、どこも似通っていた。全国の都市から、それぞれの街らしさが薄れた。

立ち遅れのメリット

池田は少し違う。昔ながらの商店

街や市場が、川西市などの周辺都市と比べて、チェーン店やフランチャイズ店と並ぶ存在感を保っている。再開発が頓挫した石橋駅前には、雑然とした街並みの中でにぎわっている。

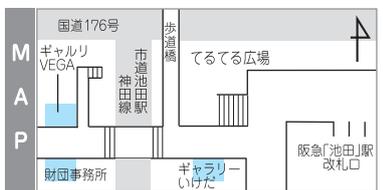
池田は高度経済成長期の商業の近代化・現代化に遅れをとったことは確かである。それは、市議会の構成に表れる地元商人の発言力の強さ（連載⑰）、老舗の保守性（連載⑱）など、池田商業に関わる事柄と無関係ではないだろう。しかし、果たして近代化・現代化は人々の生活を本当に豊かにしたのだろうか。

今、立ち遅れを逆手にとって池田商業の活性化を図ろうとする取り組みが起こっている。「池田ブランド塾（おたな「KAIWAI」）」は、「地域資源」としての落語に着目し、行政とともに商店と街のにぎわいを取り戻そうとする活動団体である。その活動をを進める山脇裕彦さん（和菓子店経営）は、次のように語っている。「今はやりの近代的なもん（略）ひよつとしてそこまでせんでえんとちやうかな」「古いまちでいった方がええんちやうかって気もせんではないんですけど」（2009年12月9日採話）。手探りの様子がかげえる。とはいえ、大変興味深い試みである。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●早瀬健二 遺作展 7/2(水)~7月 ●第3回Dream展 川口美治 7/16(水)~21(祝) ●つくってかざろう! 真夏の!! つるしマツツリー♪ 7/23(水)~28(月) 	<p>【開館時間】 10:00~19:00 (最終日は16:00)</p> <p>【休館日】 火曜日</p> <p>【入館料】 無料</p> <p>【使用料】 <ギャラリーいけだ> 50,000円 (展示販売不可) <ギャラリーVEGA> 155,000円 (ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)</p> <p>【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】 使用希望月の1年前から</p>
<p>【ギャルリVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第2回えかきたち展 7/2(水)~7月 ●第14回ACF川西写真展「四季の山野草と花華」 7/9(水)~14(月) ●水嶋山耀白寿展 一縁 (ENISHI) - 7/16(水)~21(祝) ●井上浩三 陶展 7/23(水)~28(月) ●「プリジェリ工房」 木津由美子 トールペイント展 7/30(水)~8/4(月) ●2014カルチャーVEGA教室展 最終回 7/30(水)~8/4(月) 	<p>使用申し込みは いけだ市民文化振興財団 (☎750・3333)</p>

わがまち
歴史散歩

市史編集だより¹⁰⁹

「戦後」と「戦後池田」

について考える ⑳

この5月から1カ月間、イタリアのフィレンツェに滞在した。街を巡りながら考えさせられたのは、歴史都市が現代化の波にいかに対応するかということである。前号の伝統的な池田市商業の再生とも通じる課題と思われる。そこで今号は、フィレンツェについて。

ルネサンスの都

フィレンツェは14、16世紀にかけて展開されたルネサンス(文芸復興)の都であった。チェントロ(中心街)の建物と街区は、ほとんど往時のままである。現に私が滞在したアパートは500年前の僧院の建物。ドゥーモ(大聖堂)など街の教会や美術館には、ダビンチやミケランジェロなど天才たちの作品が満ちている。世界の観光客がフィレンツェに魅せられる理由である。

民主主義と共和主義の伝統

1861年にイタリアの統一が成ったとき、その最初の首都はフィレンツェに置かれた。イタリアの戦後を切り開いた主役も、フィレンツェといえる。

ナチス・ドイツとファシズムのムソッリーニ軍に支配されていたフィレンツェでは、バルチザン(抵抗軍)が立ち上がって、ナチスとファシストを追放した。民主主義への転換に際し、市民が大きな力を発揮したのである。ルネサンス期のフィレンツェはさまざまな変遷を経たが、基本的には自治的な都市国家であった。市民によって国を運営する民主主義の原点といえる。

このようにフィレンツェには、民主主義・共和主義の精神が底流に流れていた。

フィレンツェの変化

マウリッツィオは滞在中に毎晩のように議論をした人である。1949(昭和24)年にフィレンツェに生まれ、家具作りの職人で手仕事を誇りとし、絶品のイタリア料理を作り、その上、歴史や美術についての造詣が深い。彼は次のように語る。

ルネサンス芸術は職人仕事の上に華開いた。そしてフィレンツェの職人仕事は1960年代まで数百年にわたって健在であった。その独立自尊の職人魂が共和主義の元でもあった。変化が生じたのは1966年のアルノ河大洪水の辺りと思う。救助に駆けつけた大勢の外国人ボランティアがフィレンツェに定住し、それ

をきっかけに街の様相が変わり始めた。

今、フィレンツェは二つのグローバル化によって一層大きな変化にさらされている。一つは外国人居住者の増加。一方ではアフリカや東欧諸国からの人々が増加し、他方では中心街の地価・居住費の高騰で外国の富裕層が旧住民に取って代わりつつある。もう一つは世界企業の商品と商店が進出し、従来の職人工房や商店が衰退していること。39歳のイタリア首相レンツィは、前フィレンツェ市長である。危機を打開する大改革に取り組んだが、その基本的な方向は観光都市化を徹底することという。それは正解だったのか。

都市の歴史を現代に生かすという点で、池田市にとってもよそごととは思えない問題である。マウリッツィオはフィレンツェを誇りつつ、変化は「仕方ない」とつぶやくのだが…。(池田市史編集委員会副委員長・芝村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史編集(☎754・6674)



マウリッツィオ(写真左)と筆者

ギャラリーコーナー

<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●北村行敏・田中佳伸二人展 7/30(水)~8/4(月) ●奥畑司 油彩展 8/6(水)~11(月) ●第4回小西恵子水彩画展 8/20(水)~25(月) ●植物画と折り紙 -いとこ二人展- (平山桂子・梅本吉広) 8/27(水)~9/1(月) 	<p>【開館時間】 10:00~19:00 (最終日は16:00)</p> <p>【休館日】 火曜日、8/13(水)~18(月)</p> <p>【入館料】 無料</p> <p>【使用料】 〈ギャラリーいけだ〉50,000円(展示販売不可) 〈ギャルリVEGA〉155,000円(ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)</p> <p>【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】 使用希望月の1年前から</p>
<p>【ギャルリVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ジュエリ工房」 木津由美子 トールペイント展 7/30(水)~8/4(月) ●2014カルチャーVEGA教室展 最終回 7/30(水)~8/4(月) ●野本理隆・南條百合香二人展 8/6(水)~11(月) ●2014第3回真夏のサムホール展(前期) 8/20(水)~25(月) ●2014第3回真夏のサムホール展(後期) 8/27(水)~9/1(月) 	<p>使用申し込みは いけだ市民文化振興財団 (☎750・3333)</p>

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより⑪

「戦後」と「戦後池田」

① ②

連載⑬から、1950年代半ば（昭和30年代）以後、約20年間続いた高度経済成長期について考えている。前回はいわば番外編としてイタリアのフィレンツェを見たのだが、その歴史都市の様相が明らかに変化していた。イタリアも高度成長の最中であった。イギリスの歴史家ホブズボームが述べているように（連載⑬）、高度経済成長による社会の大変容は世界的現象であった。

サラリーマンの時代

これまで、高度経済成長期の池田の農業と商業の激変ぶりをたどった。農業と商業は家族経営が大部分で、大体は仕事場と住む場が同じ全日制市民である。それだけに地域社会の変動に大きな影響を受け、地域との関わりは深く関心も高い。仕事に就く人の地位別統計では、多くは自営業主か家族従業者に分類される。高度成長期に全日制市民は大幅に減少し、地位別統計のもう一つの分

類項目、雇用者⇨サラリーマンが増加した。池田ではもともと雇用者の比重は高かったが、1965年に雇用者（役員含む）が働く人の中で8割超と圧倒的多数を占めた。全国平均を2割上回っている。雇用者の職と住は分離されるのが普通で、居住地域は生活⇨消費の場である。昼間は居住地に不在の定時制市民といえる。どうしても、雇用者は自営業主・家族従業者に比べ、地域社会との関わりは薄くなりがちである。

通勤ラッシュ

池田の雇用者には市内の商店や工場で働く人もいるが、多くは市外への通勤者である。1970年の市外通勤者の数は人口の26・1割で2万4千人余りに達する。1960年からの10年間を見れば、通勤者は83・4割の増加率、人口の伸び率の59・6割を大きく上回った。高度成長の間に、市外に通勤する



阪急「池田」駅のラッシュ（1976年）

市民の数は増加し、その家族を含めると通勤者・サラリーマン家族が住民の多数派である。1970年の通勤者のうち、64・7割と大阪市に通う人が大部分を占めた。大阪市に働く場をもつ人々の郊外住宅都市。池田はそんな性格をさらに強めた。阪急石橋駅と池田駅では、ラッシュアワーの混雑が一層ひどくなった。

団地族

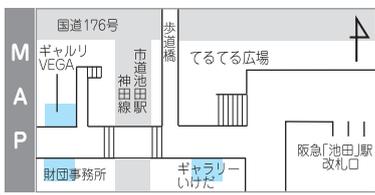
池田に押し寄せる人口増の波を受け止めたのが、日本住宅公団の住宅団地であった。1958年に池田団地、1959年に五月ヶ丘団地、1962年に緑ヶ丘団地（いずれも入居年）が造成された。公団住宅は鉄筋コンクリート造り5階建て、府営・市営住宅より一坪大きい2DK、ステンレス流し台、浴室と水洗トイレを設け、キッチンにはいす・テーブルが置かれた。家賃は公営住宅より高かったが、団地のモダンなしつらえはサラリーマン層のあこがれとなっていた。

「団地族」という言葉が出現したのは、『週刊朝日』1958年7月20日号が最初といわれる。団地に暮らす人々の生活スタイルや意識が、従来のものとは異なると認識されたのである。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 植物画と折り紙 -いとこ作品展- (平山桂子・梅本吉広) ~9/1(月)
- 河野俊也展 (絵画) 9/3(水)~8(月)
- 佐々木和子展 (絵画) 9/10(水)~15(月)
- きもの座.京都Ⅰ (光永鴻皇・鈴木啓子) 9/17(水)~22(月)
- きもの座.京都Ⅱ (大東伸・鳴瀬直幸) 9/24(水)~29(月)

【ギャルリVEGA】

- 2014第3回真夏のサムホール展 (後期) ~9/1(月)
- 黄嘴会展 9/3(水)~8(月)
- 近藤雄士のつくる木の家具と器展 9/10(水)~15(月)
- 元気いっぱい! 同窓二人展 (前田勘治・森本勲) 9/10(水)~15(月)
- 第14回グループ“翔”展 9/17(水)~22(月)
- 彩友会作品展 9/24(水)~29(月)

【開館時間】

10:00~19:00 (最終日は16:00)

【休館日】

火曜日

【入館料】

無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000円 (展示販売不可) 〈ギャルリVEGA〉155,000円 (ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)

【使用期間】

水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】

使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)